抗がん薬について

がんとは

体のなかで規則正しく生まれ変わっている正常な細胞が、様々な要因で遺伝子に傷がつくことでがん細胞に変化してしまいます。私達の体は、このがん細胞を異物とみなし取り除いていますが、取り除けなかったがん細胞が生き延びて無秩序に増えていくとがんになります。

がんの治療方法について

がんの主な治療方法として、手術療法、放射線療法、薬物療法があります。がんの種類や進行度などを考慮して、単独あるいは組み合わせて治療が行われます。がんは早期に発見できれば治る可能性が高くなるため、定期的にがん検診を受けましょう。

薬物療法でよく使用される薬について

細胞障害性抗がん薬

細胞が増えるしくみに着目し、細胞分裂が盛んながん細胞の増殖を抑えることで効果を発揮する薬です。がん細胞以外の正常な細胞にも影響し、副作用が起こることがあります。

分子標的薬

がん細胞の増殖に関わるたんぱく質や栄養を運ぶ血管などに作用し、がん細胞を選択的に攻撃する薬です。正常な細胞への影響を小さくすることで副作用の軽減が期待できますが、特有の副作用（血圧上昇、ニキビなど）が起こることがあります。

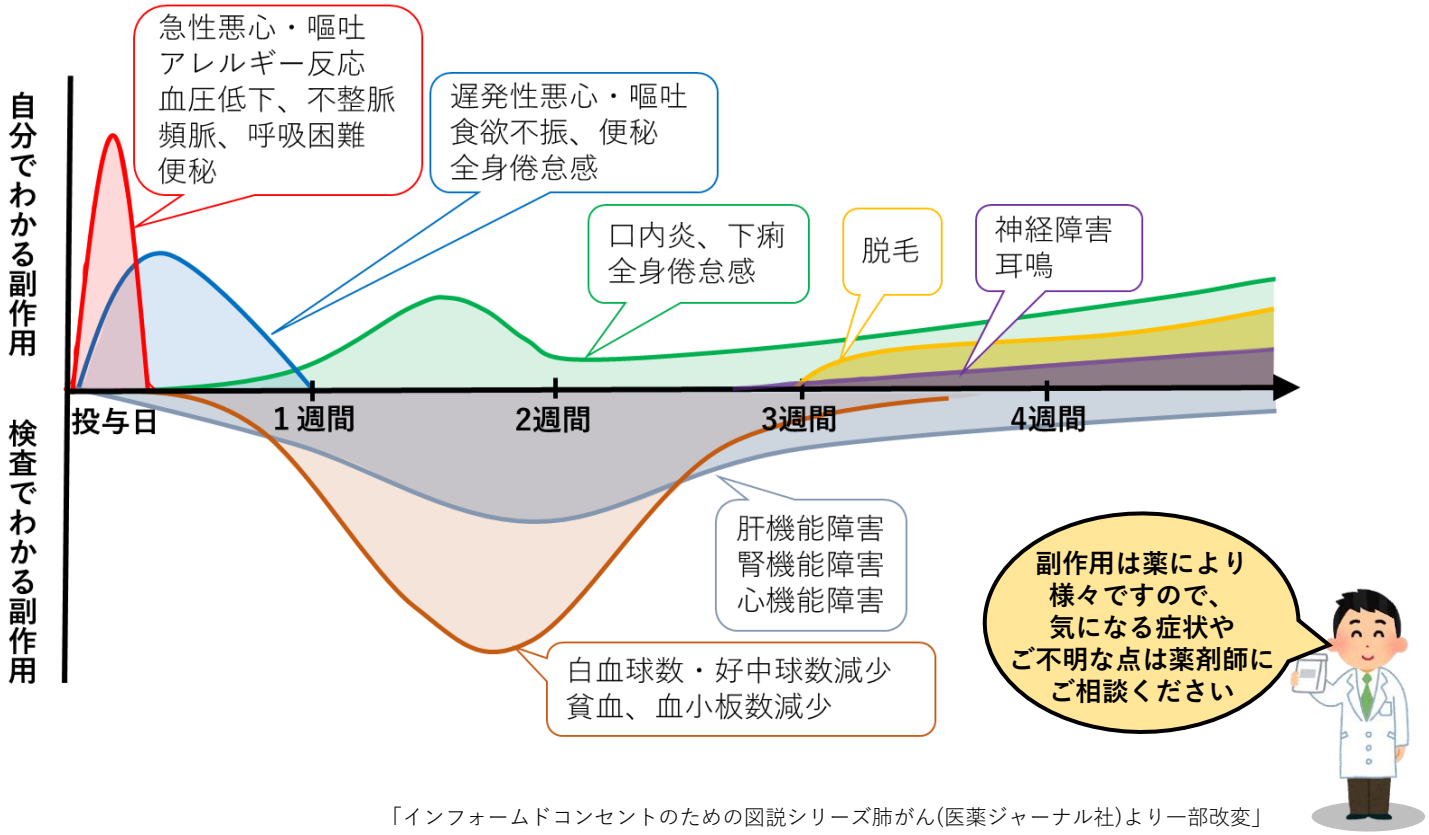
免疫チェックポイント阻害薬

がん細胞は免疫細胞の働きにブレーキをかけ、免疫から逃れ増殖します。この薬はがん細胞によるブレーキをはずし、免疫細胞がもつ本来の力を発揮させ、がん細胞を選択的に攻撃します。一方で免疫細胞が正常な細胞にも攻撃してしまうことで副作用（甲状腺機能異常、１型糖尿病発症など多岐にわたる）が起こることがあります。

細胞障害性抗がん薬の副作用と発生時期について

抗がん薬は、正常な細胞にも影響を与えるため、様々な副作用を起こしやすい薬です。特に影響を受けやすいのは、細胞分裂が盛んな骨髄細胞（白血球、血小板など）、粘膜（消化管・口腔内など）、髪の毛などです。白血球が減少すると感染しやすくなり、血小板が減少すると出血しやすくなります。また、粘膜が障害されると下痢や口内炎等が出現することがあります。副作用が現れるおおよその時期を下図に示します。これらの副作用を抑えたり、軽減する薬もあります。気になる症状が現れた際には我慢せずにお伝えください。

副作用を早期発見し対応するため、治療日誌に日々の変化を記録しましょう。



「インフォームドコンセントのための図説シリーズ肺がん(医薬ジャーナル社)より一部改変」

兵庫県立病院の名称・所在地・連絡先

尼崎総合医療センター
尼崎市東難波町 2 丁目 17-77
06 (6480) 7000

丹波医療センター
丹波市氷上町石生 2002 番地 7
0795 (88) 5200

がんセンター
明石市北王子町 13-70
078 (929) 1151

西宮病院
西宮市六湛寺町 13-9
0798 (34) 5151

淡路医療センター
洲本市塩屋 1 丁目 1-137
0799 (22) 1200

粒子線医療センター
たつの市新宮町光都 1 丁目 2-1
0791 (58) 0100

加古川医療センター
加古川市神野町神野 203
079 (497) 7000

ひょうごこころの医療センター
神戸市北区山田町上谷上字登り尾 3
078 (581) 1013

粒子線医療センター附属神戸陽子線センター
神戸市中央区港島南町 1 丁目 6-8
078 (335) 8001

はりま姫路総合医療センター
姫路市神屋町 3 丁目 264 番地
079 (289) 5080

こども病院
神戸市中央区港島南町 1 丁目 6-7
078 (945) 7300

他のパンフレットも
ココで見ることが
できます！

兵庫県立病院薬剤部ホームページ (URL：https://www.pharm-hyogo-p.jp/renewal/)